

大学図書館職員の役割

(平成 21 年 2 月 24 日)

1 大学における図書館の役割

大学図書館は、大学において「知識（学術情報）の保存と共有の仕組み」としての機能を強化することにより、知識基盤社会の中核である大学の教育・研究・社会貢献活動を支援します。

「学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与する」（教育基本法）大学は、知識をめぐる能力の育成、知の創造・普及を目的とした教育、研究、社会貢献活動によって、知識基盤社会の中核として機能することが求められています。

このような「知の拠点」として機能する使命を担う大学に設置された大学図書館は、大学の諸活動に関わる知識（学術情報）の収集・保存と共有・活用の仕組みを提供することにより、各大学の目標・計画にあった教育、研究、社会貢献活動を支えることを目的としてきました。

特に、情報化の時代が始まってからは、早くから情報技術の導入を図り、全国の大学・研究機関が所蔵する資料の共同利用を図るための大規模な共同目録データベースシステムを構築し、各大学の情報提供サービスを拡大するとともに、国全体の研究・教育活動に貢献する学術情報ネットワークの重要な拠点として機能してきました。

大学図書館は、図書・雑誌を保管して閲覧に供する公的な書斎というイメージから、グローバルな学術情報流通ネットワークの中の一情報流通センターへとその姿を変えています。

こうした背景の下、近年の電子ジャーナルへの対応、大学の教育研究成果の電子化による情報発信推進事業（機関リポジトリ）は、知識（学術情報）の保存と共有の現場である大学図書館が組織的に取り組んでいる研究支援事業といえます。

また、教育支援の面で、近年、教育機能のいっそうの高度化を求められる大学にあって、大学図書館は、学生にとっての唯一の止まり木、学習機能空間でもあり、大学の提供する教育サービスの一環として今まで以上に教員と連携した学習支援機能の充実が求められている存在であります。

更に社会貢献の面では、大学が所蔵する知識（学術情報）資源は、広く経済社会にとっても貴重な情報資産であり、その活用を促す役割も、大学図書館が積極的に担うべきものです。

蓄積した知識（学術情報）に係る文献学的知識や利用ノウハウ、図書館という知的空間の運用知識、国内外の図書館とつながるネットワーク基盤、ICTの業務応用、等々の大学図書館固有の経験・資産を活用し、その可能性を積極的に開発することにより、大学図書館は、今後も、大学における知の活動を支援していきます。

注 1)

図書館は、「知識の社会的保存と共有を担う仕組み」として歴史的に機能してきました。図書館の形態は、情報化の急速な進展に伴う記録手段の多様化に伴って、紙・冊子を物理的な館（やかた）に収納した従来型の形から、電子メディアも含めたいわゆるハイブリッド図書館に変貌しつつあります。

どのような形態であれ、例え、すべての知識が電子形態となっても、知識がなくなる限り、その保存と共有の仕組みを追求する仕事は、どこかが担うことになるでしょう。

ただ、図書館は、従来の紙メディアについても、単に伝統を守るという意味からではなく、その本質的意義について、これからも追求していくことになるでしょう。幼い子供が電子的モニター画面だけで知的に成長をすることがどのようなことを意味するのか、慎重に見極める必要があります。

注 2)

「科学技術・学術審議会」では、大学図書館の新しい役割として、次のことを挙げています。

- 電子情報と紙媒体を有機的に結びつけた新たな意味での「ハイブリッド・ライブラリー」の実現
- 学術情報の円滑な流通や社会貢献に資する機関リポジトリによる大学からの情報発信力の強化
- 情報リテラシー教育などの教育サービス機能の強化

(学術情報基盤の今後の在り方について（報告）（平成 18 年 3 月 23 日）より)

2 大学図書館職員の役割

大学図書館職員は、大学において「知識（学術情報）の保存と共有の仕組み」である図書館を構築・運用するとともに、その知のインフラとしての可能性を積極的に活用して学内諸活動と連携することにより、大学の教育・研究・社会貢献活動に貢献します。

大学図書館職員は、大学の諸活動を支援するため、次の役割について責任を持ちます。

(大学図書館職員の役割)

- ① 大学の目的や実情にあった「知識（学術情報）の保存と共有の仕組み（以下、図書館システム）」を構築し運用します。これによって、大学構成員や一般市民への知の共有・活用を促進するとともに、後世代への継承のための知の保存に責任を持ちます。ここで、図書館システムとは、情報システム、整理・サービス手続、図書館空間、資料の物流など知識（学術情報）の保存と共有に関する仕組みのすべてを含みます。
- ② 大学において行われる教育・研究に関わる知識（学術情報）を、学内外から選定・収集し、図書館システムを介して学生や教員に提供します。専門的ノウハウによる知識（学術情報）メディアの選定と目録整理、レファレンスのほか、知識（学術情報）の提供にあたって著作権等知的権利に関する事項についても絶えず研究していきます。
- ③ 図書館システムを活用しながら、大学の教育・研究・社会貢献の機能を支援するための様々な人的な連携サービスを開発し展開します。
特に、教育の面では、現代的な教育課題となっている学士力の育成、教養教育の充実に向けて、学生の自律的学習の涵養のための人的支援サービス(情報リテラシー教育支援)によって、大学の教育活動と連携した活動を積極的に展開することを重要な課題としています。
- ④ 今日の電子化・情報化の急激な進展に伴う知識（学術情報）メディアの変化・多様化に対応した新たな知識の保存・共有方法の在り方を、今後も研究し開発します。
 - ・知識（学術情報）の保存と共有に関する新しい仕組みの開発
 - ・知識（学術情報）収集の新たな在り方
 - ・大学における教育・研究の変化に対応した新しい知識（学術情報）サービスの開発と提供
- ⑤ 大学図書館職員は、国全体の学術情報基盤を担う人材基盤の一員として、国内の整備を推進する一方、絶えず進化する海外の学術情報ネットワークとの連携のため、国内の学術情報に係る実務部門の代表として国際的な協議に参加する役割も求められています。

注) 急速な進展を見せるICTは、いわば「知の利用にかかわる技術革新」であり、図書館職員は、大学職員の中でも、早くからこうした情報技術の進展の影響を受け、また関心を払ってきました。これまでもそうであったように、これからもICTを先導的に取り入れ応用する能力は、図書館職員に求められるスキルの一つです。

文部科学省「科学技術・学術審議会」の「学術情報基盤の今後の在り方について（報告）」は、今後、強化・育成すべき人材として以下を掲げています。

- 図書館職員としての専門知識と経験のほか、特定の専門分野についての高度の知識を持つサブジェクトライブラリアン
- 伝統的な図書館業務に関わる理念と知識、技能に加え、情報通信技術の活用と人的サービスを行うコミュニケーション能力を持った、いわゆるデジタルライブラリアンともいべき人材
- 電子資料を高度に組織し提供可能にするための技術やデジタル資料の作成・導入に関わる契約や法律に関する基礎知識を備えた人材
- 学術情報流通の国際化、教育研究の国際化に対応できる広い視野を持った人材

大学における図書館職員の役割

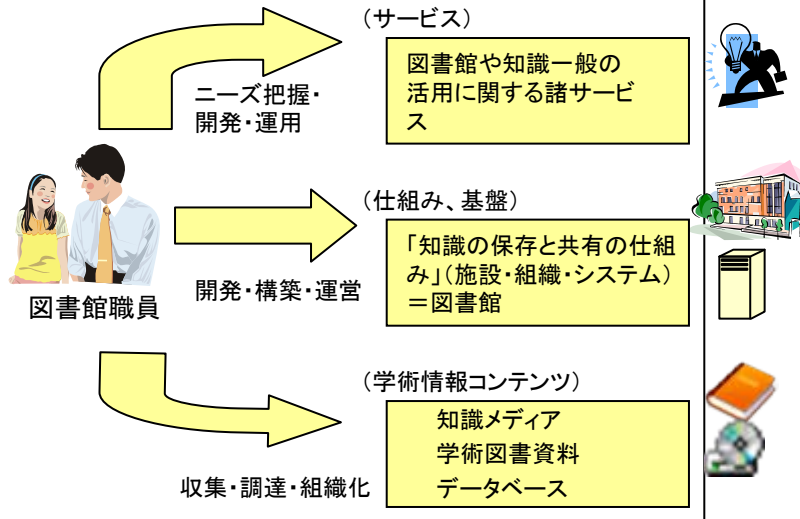
(平成20年10月6日)

大学 = 知識基盤社会における知の中核機関

大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を養うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与する〜(教育基本法「第7条」)

知識(学術情報)を中核とした 大学図書館職員の役割

—知識(学術情報)の収集、基盤の構築、サービスの実施—



(図書系職員に必要な知識・スキル等)

- 「知識の保存と共有」に対する使命感と柔軟な事業創造力
- 「知識の保存と共有」に必要な諸知識(古典籍・出版・著作権～メディア、情報ネットワーク・システム技術)
- 特定の分野に関する主題知識
- 情報支援に必要な対人コミュニケーションスキル

図書館サービス

人的サービス

(教育支援)

- ・知識活用アドバイザー支援 ※

(研究支援)

- ・研究論文探索支援

(社会貢献支援)

- ・生涯学習、連携研究等支援

空間/電子システムサービス

- ・「図書館」空間の提供
- ・ネット上の知識ポータル提供
- ・情報・文化イベントの実施
- ・知識資料の後世代への継承

管理的サービス

- ・情報資料・DBの調達管理

※大学が行う教育チームの一員としての支援

知識(学術情報)を中核とした大学の現代的課題への対応貢献

教育

(高い教養知識と専門的知識学習・活用能力を有する人材の養成)

- ・学生のためのキャンパス内学習空間の提供
- ・教養教育の支援(教養を身につける場)
- ・自律型学習力(学士力)の養成支援

情報収集・編集・伝達スキル
情報検索スキル
図書館の活用
情報探索スキル鍛錬の場

研究(新しい知識の創造)

- ・先行研究、関連他領域研究等の探索支援
- ・外部研究資料の収集・管理
- ・研究成果の情報発信支援

社会貢献

(学術知識の提供による社会発展寄与)

- ・大学学術資料の一般利用
- ・大学研究成果の公開(リポジトリシステム)
- ・貴重な学術文化資料の保存・公開

知識の理論と技術に関する研究(=情報・図書館学)

- ・新規メディアに伴う新たな保存と共有の仕組みに関する理論的研究・開発
- ・知識一般の活用に関する理論的研究・開発(知識活用学、調査・学習学(⇔教育学))

実践と研究

連携